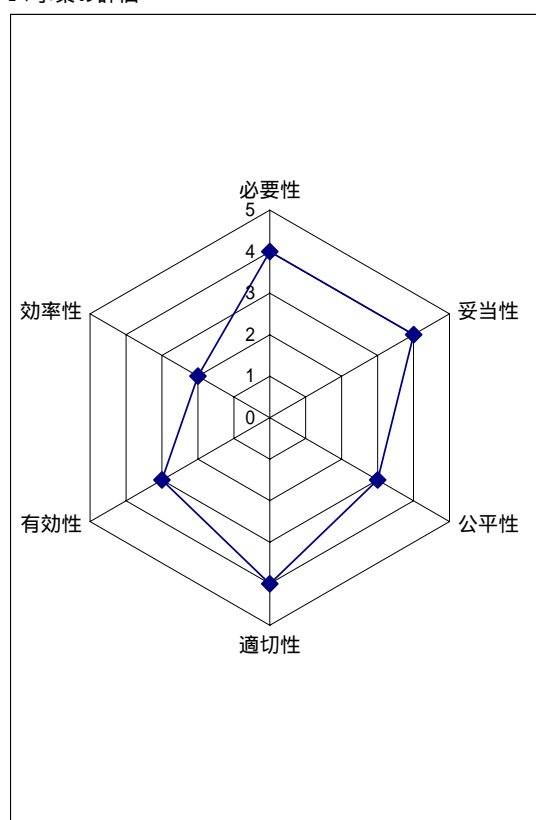


事務事業名	市単かんがい排水整備事業	担当部局	市長部局 産業経済部
基本目標	豊かな暮らしを育む活力ある産業づくり(産業)	担当課名	耕地課
施策体系	美しい田園を育む交流型農業の振興	担当係名	土地改良係
施策	農産物の安定した供給体制を充実する		

1. 事業内容

事業本来の目的と具体的内容	農業用排水施設の改修を行うことにより、生産性の向上及び農業構造の改善等に資するとともに、湛水等の周辺への影響を防ぐ。		
事業の期間(開始/終了)	99年 99月 / 99年 99月		
根拠法令、条例、規則など	土地改良法・土地改良施工規則		
事業が対象としている人(モノ)	農業用排水施設		
具体的な活動内容	要望書の受付、処理、調整等を行った。		
	現地を確認し、調査・測量・設計・積算を行った。		
	関係地権者に工事の説明を行った。		
	工事を発注し、施工管理を行った。		
事業の成果	市民の要望を受け付けることで、全体的に必要性を理解できた。		
	要望箇所を調査することで、現状を把握できた。		
	施行箇所の設計・積算をすることにより、事業に着手できた。		
	地権者等との協議をすることにより、要望に合ったかんがい排水整備ができた。		

2. 事業の評価



項目	説明
必要性	4 依然、必要性が高い
	農業用排水施設の老朽化が進み、部分崩壊により機能低下している状況であり、近年の開発に伴い雨水排水量が増大し、排水路が崩壊するなど周辺の影響が危惧されるため、必要性が高いと考えられる。
妥当性	4 法的な問題などがあり、行政が行うべき事業である
	本来であれば地元受益者にて維持管理すべきであるが、維持管理組合がなかったり、あっても少数で予算的に対応できない場合が多い。また、用排水路等が崩れている場合等、大雨による二次災害を未然に防止する意味でも行政での対応が必要である。
公平性	3 どちらとも言えない
	原則として維持管理組合で対応できない場合や市に原因がある場合での対応である。また、未整備箇所が重点となるために、対応する地区の偏りは生じるが、関係する受益者全員への対応となるためどちらとも言えない。
適切性	4 現在のやり方(手段)が一般的であり、特に問題はない
	地元と十分な協議を対応しており、特に問題はない。
有効性	3 どちらとも言えない
	事業を実施した箇所は、地元住民の要望に応えており、概ね目的は達成されている。しかしながら、修復的対応となるケースもあり、これからの検討課題であると言える。さらに、予算が要望どおりつかないため、要望を満足できない部分もある。
効率性	2 効率は徐々に低くなっている(コストは若干増加している)
	市単かんがい排水事業の予算は年々削減されており、少ない予算で市民の要望にいかんにかして応えるかといった事が多くあり、担当者や地権者との間で幾度も協議を重ねて施行している。その意味ではコストは増加、人員効率は減少していると言える。

総合評価	本事業については、内容的に見てみると、地権者との協議等を踏まえ施工するところから、予算に対しての効率は良いものと判断する。問題点・課題を挙げるならば、厳しい予算の中で要望すべて満たすことは難しいと感じられる。
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------

3. 今後の事業の方向性

所属長判断	事業の方向性判断	短期的方向	維持継続	中長期的方向	維持継続
	説明	農業用水の安定供給、排水条件の改善など水利用の安定と合理化を図るため、用排水機場や用排水路などの農業用排水施設の整備は不可欠である。			
決定権者判断	決定内容	維持継続			
	説明	農業生産性の向上と農業構造の改善するために必要な整備事業である。			